

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成22年1月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201537		
法人名	株式会社 さくらコミュニティサービス		
事業所名	グループホーム 満快のふる郷さくら東苗穂		
所在地	〒007-0805 札幌市東区東苗穂5条2丁目9番28号 (電話) 011-784-3987		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年12月9日	評価確定日	平成22年1月6日

【情報提供票より】 (21年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15	年	10	月	27	日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	15 人	常勤	15 人	非常勤	0 人	常勤換算	15 人

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り	
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円			
その他の経費(月額)	水道光熱費 20,000円	暖房費 (11~3月)	10,000円	
敷金	有 (210,000 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 () 円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (11 月 15 日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	67 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)桜悠会北24条在宅クリニック 札幌病院 いしまる歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所の玄関に立つと昔懐かしい鉄ビンや火鉢、暖簾などの品々がたくさん揃えられていて、時間が止まっているような穏やかで癒される気がする。高齢者のグループホームに理解のある方が設計したとのことで、間取りにも余裕があり、居間も階段も明るく広々でゆったりしている。管理者が誠実で一生懸命な姿勢なのが伝わって来て利用者本位のケアに取り組んでいる様子が伺われる。記録簿はしっかり整備されていてわかりやすい。母体組織の他の事業所との交流が密である。1階のコミュニティールームは開設時より地域へ開放するよう検討しており、地域との連携を図るためにも実現に向けてさらに努力していくことを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題である「地域とのつきあい」「運営推進会議を活かした取り組み」「市町村との連携」「同業者との交流を通じた向上」は改善計画を立案しないが取り組みが行われた。「災害対策」については地域の協力を得るまでには至っていない現状で、引き続き検討するよう望みたい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価票は全職員に配布してそれぞれ記入してもらい、管理者がまとめたが、その結果を全職員で検討するまでには至らなかった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、事業所での利用者の暮らしぶりや課題となっていることなどについて話し合われている。11月には夜間を想定した防災訓練を実施し委員会のメンバーと意見交換を図り、利用者の安全確保に向けた取り組みを行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族へは年4回の事業所便り、月1回の書類を送付する際に本人の近況報告の手紙を同封している。意見や要望については家族等が来訪した際の声かけや意見箱の設置、アンケート等で図っている。母体組織の他の事業所便りを掲示しているので、参考資料や情報源となっている。重要事項説明書に外部の苦情窓口を記載している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入している。近くの公園の落ち葉拾いやごみ拾いを行っている。リングブルの収集を行って回収に来る子供たちと交流を深めたり、近くの幼稚園の行事に参加することもある。年4回発行している「さくらだより」を近所に配布している。また、1階のコミュニティールームを地域に開放することも引き続き検討している。

社団法人 北海道シルバーサービス振興会

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念、運営方針としての6つの誓い、ケア方針を掲げているが、母体組織の理念、運営方針となっている。事業所独自で作上げた理念が求められる。	○	地域や利用者の必要とするサービスは異なるため、母体組織の理念ではなく事業所の特性等を踏まえ、ニーズに即した事業所独自の理念の作成が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は毎朝の申し送りのときに復唱し、新人研修時には理念を説明し共有するよう努めているが、日々のサービス提供場面で理念が意識づけられるまでには至っていない。	○	管理者と職員は、理念を復唱するだけでなく掘り下げて意識的に話し合い、確認することが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。近くの公園での落ち葉拾いやごみ拾いを行っている。リングブルの収集を行い回収に来る子供たちと交流を深めたり、近くの幼稚園の行事に参加したりしている。年4回発行している「さくらだより」をご近所に配布している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価については全職員に評価票を配布しそれぞれ記入してもらい管理者がまとめているが、その結果については検討していない。前回の評価については全体会議で周知したが、改善計画を立て具体化するまでには至っていない。	○	前回の外部評価の結果が必ずしも職員に意識付けされていないので、管理者は評価の意義を職員に周知し、改善に向けた計画を立て具体化しながら取り組むことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、課題となっていることが話し合われており、意見等はサービス向上に活かすよう努めている。丁寧に記録もされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回の入居状況、生活保護者の生活の状況等についての報告の機会を利用し、区の担当者と共にサービスの向上に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回の事業所便りの発行、また月1回の書類を家族等に送付する際に近況報告の手紙を同封している。職員については顔写真を事業所内に掲示し、異動や辞職があった場合は家族が訪問した際に口頭で伝えている。必要に応じて家族等との全体会を開催している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回書類を送付する時に自由記載のアンケートを入れたり、ユニットごとに苦情箱を設置したりしている。職員は家族が来訪した時に気軽に話せる雰囲気を作るよう心がけている。重要事項説明書に外部の苦情相談窓口を記載している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は極力最小限にしているが、昨今の離職については苦慮している。新人職員が入る場合は利用者に紹介しさりげなく教えてもらう場面を作りながらダメージを防ぐ工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画表を作成しているが、受講する機会があるのは一部の職員に限られている。人材育成には研修が重要なので、希望者が参加できる体制作りが望まれる。	○	外部研修への参加は一部の職員に限らず、可能な限り多くの職員が受講できるような体制作りが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体組織の他の事業所と交流や学習会を行ったり、グループホーム協議会に所属し研修会に参加してサービスの質向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が利用者の自宅を訪問したり、事前に事業所に来てもらったり、家族から情報を得て相談し、事業所に馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者ひとり一人の得意なことや経験してきたことを見つけながら場面づくりをし、一緒に行うことによって、利用者から学んだり、支えあう関係を築くよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々コミュニケーションを通じて、思いや意向を汲み取ることは勿論のこと、センター方式を活用しながら本人、家族から情報を得るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を踏まえながら、担当者が中心になって記録を整備し、全職員でカンファレンスを行い、介護支援専門員が介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しをし、状態に変化があった場合は、その都度見直しを行っている。本人や家族の意向をくみ取る努力をしながら、できるだけ現状に即した介護計画になるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の希望に応じての通院介助、外出先への送迎など、その時々々の要望に応じた柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の医療機関との連携ができており、適切な医療が受けられる体制になっている。母体組織の看護師が週1回来て利用者の状態を看護日誌に記載している。訪問歯科診療は希望があれば行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期マニュアルを作成している。日頃から利用者とは会話することによってご本人の意向を汲み取る努力をしている。入居時にご家族に説明しているが、その時々で主治医も交え方針の共有化を図るよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はひとり一人のプライドを傷つけないような言葉かけを行っている。記録等についても取扱いを慎重にし、漏れない工夫をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のところへお経をあげにお坊さんが来たり、飲酒、煙草を吸う人には希望に沿うよう支援したり、日頃から利用者の要望をくみ取るよう努め、その人らしい暮らしへの支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の時間よりケアに充分時間をおきたいと、業者からの温めるだけでOKの調理品を利用している。職員と一緒に準備や調理に関わることのできる利用者も見受けられる。また食事づくりの様子から五感がさらに刺激され、利用者にとって食事が楽しみとなるように配慮が望まれる。	○	職員と一緒に準備や調理に関わる場面を作り出すことによって、ひとり一人の残っている力が引き出され、食事がさらに楽しみなものになることがような工夫に期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回以上入浴できるようにし、入る時間帯はひとり一人の希望に沿っていつでも可能にしている。同性介助としている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器ふきや後片付けなど本人の役割や楽しみごとを引き出すよう努めているが、楽しみを見つけてことができずに退屈がっている利用者も見受けられる。	○	利用者ひとり一人の希望や習慣、活力を踏まえて、楽しみや気晴らしができる支援が求められる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物などその日の体調に合わせてできるだけ利用者の希望に沿うよう支援している。8人乗りの車があるので外出に利用することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上、玄関のみ施錠をしているが、日中は鍵をかけていない。外出しようとする利用者を察知した際にはさりげなく声かけをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	8月には消防署の職員に依頼して防災の講話をしてもらったり、11月には職員が利用者に扮して夜間を想定した模擬訓練を行い、参加した地域推進会議のメンバーから意見を伺ったりして防災対策に努めているが、地域住民の協力体制づくりまでには至っていない。	○	事業所だけの訓練ではなく、地域住民に対しても協力体制を築く努力を継続的にしていくことが求められる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表や生活チェック表を使用しひとり一人の栄養バランスや水分量を把握し、個々の生活習慣や食習慣を観察し食の支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は自然採光も十分で広くゆったりしている。ソファやテーブルが置かれ、思い思いに過ごせる場所が確保されている。手作りカレンダーや季節感のある飾り物で家庭的な雰囲気を醸し出し、居心地良く過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者馴染みの冷蔵庫、お仏壇、使い慣れたタンス等が置かれ、其々その人らしい居室となっている。		

※  は、重点項目。